

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200624		
法人名	有限会社 かみさと介護ステーション		
事業所名	グループホーム かみさと		
所在地	埼玉県児玉郡上里町大字七本木291番地1		
自己評価作成日	平成24年1月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1174200624&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成24年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が、家庭の延長線上の職場として考えており 利用者と家族同様に穏やかに日々を過ごせる様援助すよう心掛けています点でしょうか。
また、建物にフェンスの無いところや日中は鍵をかけず対応していますので利用者が伸び伸びと生活している様
利用者が伸び伸びと生活している様 感じられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、隣に消防署、近隣には民家や田畑のあるのどかな地域にある1ユニット、定員9名のグループホームである。「和(なごみ)」を理念に、「老いを楽しく」、「一人にしない」、「寝たきりにしない」、「認知症の正しい理解を」、を介護目標に、職員は、入居者が打ち解けた雰囲気の中、穏やかに生活出来るケアを大切にしている。ホールにある大きな丸テーブルには、いつも彩の良い季節の花々が飾られ、入居者は喜び、かつ興味を持って観ながら、話が盛り上がっている。生活の楽しみの一つである食事は、三食とも野菜を多く取入れ、手作りで温かいものが提供されている。食材は近くの産直店へ入居者と一緒に出出しに行き、調理の場面では出来る事、得意な事をする等、食卓へ上がるまでの一連の作業に参加している。職員の定着率も良く、「綺麗にしてあげたい気持ち」を持ち、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にしています。	多くの方が出入りする玄関に、理念「和(なごみ)」を掲示している。職員は共有を図り、日々の支援の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしたり、近隣への買い物へ出かけています。	町や地域の情報は、地域住民の代表者や懇意にしている農協の方から得ている。散歩や買物時に合った方と挨拶や会話を交わしたり、地域の納涼祭に参加したり、マラソン大会の応援等して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物等で外出している為に、地域の方々にも あいさつなどで理解を示して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方からの要望や意見をのべる場として活用したり、施設側からの入居者の状況の様子を連絡する場としております。	代表者、地主、民生委員、家族、職員をメンバーとして年6回開催した。協議内容は、現況、行事報告、認知症者や高齢者への理解等である。電話で開催案内、出席依頼をしているが、町関係者の出席は得られていない。	年6回開催への取組みは評価出来るが、今後は地域密着型サービスとしての役割や意味を果たす為、町担当者や地域に関わる方、多くの家族の出席を得て、より充実した運営推進会議への取組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を取り、最新の情報を入手する様になっています。	空き室状況等、必要な事柄は適宜連絡を取合い、入居者の状態を知らせたり、アドバイスをもらったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から「鍵はかけない」としており、鍵をかけてしまう事へのデメリットについて職員間で話し合いをしています。	現場で気になる行為が見られた時は、申し送り時等を利用して話し合い、再確認や正しい理解に繋げている。玄関、居室窓等は日中施錠せず、見守りしながらのケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者のケアにおいて、これは介護者側の都合を押し付けていつのではないかなど、ケアの在り方について常に話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には、関係所より情報の入手をする様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問には、常に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族からの要望等を伺ったり、利用者の身体状況など日常生活の様子を伝えたり等をしています。	殆どの家族は少なくとも月1回来訪している。その際、生活の様子を伝えながら、意見や要望を聞いている。又、運営推進会議開催の案内を全家族に連絡し、出席した家族から、運営面についても意見や助言を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場での生の意見なので常に聴き入れ、改善出来るところは改善へと話し合いを持ち決定をしています。	職員から意見や提案があった時は、代表者、管理者、本人の三人で話し合い、結果を全職員に伝え、周知を図っているが、職員が一堂に集まる協議の場や研修会は無い。	個々の提案や意見を活かす取組みはしているが、一堂に集まり、相互に協議し合う意義等を考慮し、サービス向上と職員のスキルアップの為、時間を捻出し、実施に向けた取組みが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の雰囲気や業務遂行に支障の無い様に働きかけをしています。また、職員の健康管理にも配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気分良く働ける職場であれば、職員が自ずと向上心を持ってもらえるのではと思い、認知症についての資料やケアに関する雑誌の購入をしれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内での勉強会や職員の研修会への参加を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションの構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しを全て受身で聴いて、ひとつずつ解決策の話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご家族と話し合いを持ち どんな支援が必要なのかを決めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ひとつの家族として 相手を思いやる心で 利用者が穏やかに過ごせる様心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と協力をし、当人が施設で心穏やかに過ごせる様 方向性を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を限定していない事により、ご家族を始め親戚や友人が何時でも逢いに来られる様 配慮しています。	知人、友人、親戚の面会はいつでも受入れている。又、殆どの家族は月1回は来訪し、ホールや居室でお茶を飲みながら話をして帰る。馴染みの美容院の利用は、美容院側の好意で送迎してもらい、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介に入る様にして、話題作りや笑顔が見られる様なお喋り出来るよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後や亡くなってしまった ご家族とも今でも交流があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雑談時にコミュニケーションを取りながら当人の希望を聴きだしています。また、困難な場合には、ご家族の意向等を聴き入れ検討しています。	日常の様子や生活歴から、興味や関心のありそうな事を話題にし、声掛けや問い掛けを多くし、個々の思いや意向を引き出し、把握している。難聴の入居者には耳の傍で話し掛け、聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当人の生活歴を知り、場所は施設内と変わってしまったが 生活習慣の変化を極力抑えた支援を行える様 職員一同努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当人の心に寄り添う支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の生活歴を考え どの様に支援をしたから 施設において 穏やかに暮らす事が出来るか という事を根底に置き 作成に努めています。	計画作成担当者が、入居者個々の様子を職員から聴取したり、メモを提出してもらい、個人記録と合わせ、家族の要望や意見も取入れて作成している。状態安定時は6ヶ月毎に、急変時はその都度見直して作成し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経営者や職員と共に、介護のあり方を勉強しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当人が、地域の中で自分らしく生活できる様にサービスの提供をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設前にある消防署等に協力依頼をしており、入所者が安全に生活出来る様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の相談の元、疾患に合った病院を選択しています。	入居時に同意を得て、協力医をかかりつけ医としている。定期受診は隔月にホーム対応で支援し、状態に応じて訪問診療も可能である。歯科は月1回、口腔ケアを中心に訪問診療、その他の科は家族対応で受診している。依頼があった時はホーム対応し、結果については情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期受診をし 病気の予防に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADLの低下や認知症の進行緩和に、病院の主治医と相談をし早期通院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者に治る見込みの無い疾患が見つかった場合は、ご家族と相談の元 ご家族の意見を反映しています。	医療体制がない為、常時医療を要する状態になった場合は、早めに家族に連絡を取り、かかりつけ医、家族、ホームで話し合い、家族の意向を踏まえ、最善策を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の勉強会を開催しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	経営者や地主の自宅が、施設と近いことと消防署が施設の前にある事により災害対策としての協力体制が整っています。	消防署立会いも含め、年2回、入居者参加で火災想定の実践を実施している。食料品等は、一週間分の備蓄がある。	火災以外の災害、及び、夜間等、様々な想定による訓練計画を立案し、実施検証する事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族の承諾を得、当人が昔に呼ばれていた名前で呼ばせて頂いています。また、嫌な感情を残さない様に対応に努めています。	人格や性格を尊重した対応に気を付けている。入居者個々の行動やジェスチャーを見逃さないようにしている。場合によっては小声で確認したり、誘導したりしている。入浴は個浴で、排泄介助はトイレでプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から 当人の思いを聴きだして その中から 自己決定で来るよ様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、当人の希望や体調、及び天候によりスケジュールの変更をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の割合で髪のカットを行ったり、衣服においては 職員が一部調整を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンにて手伝う事が可能な方は、お手伝いをお願いします。食事は、円卓を囲み職員も一緒に食事をしています。	献立が直近で重複しないよう考慮して職員が立て、野菜中心に、三食手作りで食事提供している。入居者と食材の購入に出掛け、ゴマ擦り、野菜切り等、出来る事で一緒に調理している。個々に合った食事形態にし、自力でゆっくり食べてもらっている。職員も見守りや話をしながら一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、職員の見守りの元 個々に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当人のレベルに合わせた介助を行っています。	自立の方、リハビリパンツ着用の方等、様々なレベルに合わせている。日中はトイレでの排泄支援に向け、支援している。トイレ入口にセンサーを設置し、排泄チェックを行い、声掛けや誘導も併せて行い、失敗を少なくするよう努めている。夜間、居室でポータブル利用する時は、センサーマットでチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る事なく 運動や食事で対応をし、身体的に低下が認められる方に関してだけ 医師の指示の元 下剤の服用をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回16:00～行う様決定しています。でも、入居者からの要求があれば対応しています。また、季節の花やゆず・温泉の元等を使用し楽しんで頂いております。	週4日の入浴体制とし、一人平均週2回は支援している。柚子湯や菖蒲湯、入浴剤等を利用し、個浴でゆっくりと楽しんでもらっている。気温の高い日や夏場は、シャワー浴を加えたり、身体の清潔保持に配慮している。気分や体調で中止した時は、時間や曜日を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、布団を干し 気持ちよく休める様支援しています。また、寝具等の洗濯においても不定期で行い 衛生面での配慮もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者服薬一覧ファイルにて、職員一同 目を通しやすい機会をつくりました。それにより、薬について個々に自己学習しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当人の得意分野を生かして、穏やかに過ごせる様 支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や近くへの買い物等の短時間の外出をいいます。また、遠方への外出においては事前に計画を立てて行っています。時に入所者の希望を聴き入れての計画もあります。	散歩や買物で外気に触れ、気分転換を図っている。ドライブを兼ねて、公園のこいのぼり見物や、コスモス狩り等の花見に出掛けている。「花見に弁当を持って行きたい」という希望も取入れて実施し、喜んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方のみ、外出でのお買い物時 見守りの元 自ら支払をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があった場合には 対応をしています。また、ご家族から電話があった時には 本人を電話口まで誘導をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の掃除時には、窓を開け空気の入れ換えを行う様にしています。また、ホールには花を飾るなどして季節感を味わえる様心掛けています。	共用空間は広く、ゆったりとした造りになっている。ホールには大きな円卓があり、日当りの好い窓際にはソファコーナーがあり、思い思いに過ごせるようになっている。カウンターキッチンとホールは中の様子が見え、安心して過ごせる。廊下も広く、全員で歩行訓練をしている。出窓スペースは、休憩、談話所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南側のソファは、その時々で個々に好きなところに腰を下ろして頂くようにしています。また、夏は廊下の出窓に座り 入居者同士で雑談している姿もみられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具等を持ち込みして頂いています。また、趣味の物等も危険性の無い物であれば持ってきて頂いています。	大きな窓からの採光でどの居室も明るく、ベッドの他、クローゼット付きの押入れがあり、整理整頓に便利である。入居者は、テレビ、仏壇、鏡台、タンス、ソファ等や、人形、写真があり、好みの居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた責任感のある仕事をして頂き 自立ある生活を支援しています。		